

♪ 森のこかげでどんじゃらホィ ♪

6月17日の夜、満月の晩のこと、喫茶「つ」で引伸実技教室が開かれた。講師は中先生こと宮間さん。生徒6名、野次馬7名。

引伸杖がカウンターの上にデソと坐り、室温は22℃。当記者が中先生のお伴をして「こんばんわ、ご苦労さまでーす」とお邪魔したので丁度7時。



既に来ていた ウララさん 小林さん 高橋さん 水谷くん がニコニコと迎えてくれる。陸ノ字と和ちゃん はホームグラウンドのせいか 醒めた顔付き。(陸ノ字の醒めた顔って、皆さん ちょっとご想像を。) (和ちゃん、このあと10分と少し経って、「私も呑みたいワ」を連発するも、声を落として誰も気付かぬ)

「この間 小森さんの結婚式あったでしょ。花婿の小森さん 記念撮影になって あっとびっくり、写真屋さんがなんと小林さん。小林さんも花婿が小森さんで アッとびっくり — たったんですって。」 — とウララさんがニュース提供。格別ニュースバリューがあるわけでもないのに、みんな ニコニコ。

中先生の授業は いっぱい衰っていた。「さあムコリすっ 六切に伸ばして下さい。自動車学校といっしょで実技優先せよ。」

小林さんが先陣、f8で3秒、イヤッ。 薄かったア。
 2番手堀切君、f8で12秒、イヤッ。 濃うかったア。

この後 和ちゃん、高橋さん、陸ノ字、水谷くん、ウララさんと続き最後に野次馬が発作的に飛入り。野次馬すなわち 蔦頓馬。(トノマの語源は実にこれに発す) 1等賞はウララさんの焼きでした。

次にネガを渡して一挙に中級講座に入る。逆光線でもよく肉乗りした空の焼込みである。これは時間がなくて中先生の模範実技となる。

クネクネ、アヤアヤと手品使いのような手さばき指さばき一同ボカン。現像液の中で空が浮かび出て一同ウン。「フムむっかしそう」と陸ノ字。「あぶり出しの宮間さんや、モン」と鳥屯。(オシマイ)



河童の頭の血とかけて
 これから現像するフィルムとよく
 そのころは
 ぬれているのがよいです。

フィルムの現像むらはこうして追放

(宮間邦光)

コンタクトを拝見すると 皆さん存外お悩み多いのか フィルムの現像むら。明るい路面に明るい砂浜、画面の下の方がよく白くなっているようです。

これは勿論フィルムのはしこの肉の乗り過ぎ、即ち現像むらです。

フニ? 引伸しの時にカバーしなさん? いやいやそれでも結構ですよ。

真夏なら17℃くらい 真冬なら23℃くらいの水を先ずタンクに入れる。その水にはドライエールを2-3滴入れておくと更によい。待つこと2分、もちろん底をトントンとして気泡は追放しておく。

水を流し去って さて現像液の注入となる。

これでO.K. しかし更に確実を期したいお人は次のようにして下さい。

リールに捲いたフィルムはタンクに入れなくて、いったん別のカンカンに入れておく。光が漏れては困るので、フタのしっかりした赤ちゃんの粉ミルクの空き缶とか、海苔の空き缶がよい。奥庄の海苔の空き缶ならもう申し分ない。本当は上記のようにドライエールを入れた水を入れておけば、それにフィルムを漬けてフタをしておく。理想的。

そして現像液を入れたタンクの中に、(まっくらにした暗室の中で) 入れ移せば 現像開始となったわけ。

フィルム現像は、フィルムが現像液にまみえる 最初の数秒が いろいろである。

7月の例会は 鈴鹿の

中条カマラ店(中条さんのお店)のスタジオで 涼しい例会。
 7/14日(土) 7.30.p.m. の予定です。

30℃を超えた先週の日曜日 炎天下に14本写した男。ウスキーを焼くやうに割って呑む男。その男写真が面白いため「さけ」を止めてしまった。その男の奥さんの煮いたしいけ日本一うまい。その男のおアコさんの作るキアツキ 世界一。

この時リールに回車を子えながら注入するがよい